

＜越冬害虫の退治＞

《冬は大切な手入れの時期》

朝晩寒くなり、木々も次第に色付き始め、秋から冬への季節の変化を感じられるようになりました。冬は木も虫も休眠期に入るので、手入れが不要な季節に思えますが、実は、これから始まる1年間の庭木の生育や、花の付き具合、果実の実り具合などを決定づける、最も大切なお手入れ時期ともいえます。

《病気に負けない環境作り》

すす病やさび病など、樹木には発生すると厄介な病気が多く存在します。病気が出づらい、出ても樹木が負けない環境作りと同時に、病気の原因を知り、予防することも大切です。実は病気の大半は、樹木に虫がつくことによって発生しています。虫の糞にカビが付着し広がるすす病、枝や葉を虫にかじられることで、その傷口から樹木内に侵入するウイルスが引き起こす病気もあります。細菌やウイルスの違いはあっても、虫が媒介していることに変わりはありません。そこで、病気の原因である虫の発生を予防しましょう。

《冬季害虫駆除のススメ》

害虫の発生が顕著になってくるのは、暖かくなってからですが、多発してからでは被害が出てしまい、駆除も大変になります。でも、冬季の駆除は発見さえできれば簡単です。例えば、触ると皮膚炎を起こすドクガも冬は卵ですし、虫は動かず、さらに落葉樹は葉が落ち、とても扱いやすい時期です。冬季に害虫への対処をとることで、春から夏の発生数を減らすこともできます。この時期の害虫駆除は価値が高いと言えます。

《木を見ることから始めましょう》

害虫が樹上で越冬する状態は、成虫と卵と両方あります。カイガラムシ類は成虫、ハダニ・アブラムシ・蛾は卵であることがほとんどです。

- ①「卵のう」のようなものが葉裏に付いていると、ハダニの越冬卵です
 - ②食害された葉の残骸の中に卵があると、ハマキムシの卵とされます
 - ③支柱を取り付けているシュロ縄に産み付けられた卵は、蛾の卵とされます
- 局所で産み付けられた卵や、虫の数が少ない場合は、取り除くのが最も確実な方法です。



《冬の害虫駆除に有効な農薬》

	特 徴	適応樹種
マシン油乳剤	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤が乾燥した後に膜が形成され、虫を包み込むことにより、窒息させる ・他の殺虫剤に比べ、環境への影響度合いが低い ・臭いが少なく、住宅地でも使いやすい ・12、1月が散布適期 	<ul style="list-style-type: none"> ・モチノキ科、ツバキ科：カイガラムシ ・バラ科：アブラムシ ・イヌツゲ、モッコク：ハダニ <p>など</p>
石灰硫黄合剤	<ul style="list-style-type: none"> ・強アルカリ性の硫黄の殺菌作用が、病原菌を直接殺菌すると同時に殺虫もする ・石灰が幹の周りに皮膜を形成することで、硬い殻に覆われた虫にも窒息効果がある ・硫黄臭がある ・散布時は完全防備で取り扱いに注意して使用すること ・強アルカリ分が噴霧器を傷め、石灰分がノズルを塞ぐことがあるので、散布後はすぐに洗浄する ・2、3月が散布適期 	<ul style="list-style-type: none"> ・落葉果樹：カイガラムシ類、ハダニ類 ・ミカン：ハダニ類、ヤノネカイガラムシ ・モモ：縮葉病、黒星病 <p>など</p>



《補足:防寒資材の紹介》

○トンネル資材-1 (菜園トンネルシートなど)

夜間の保温能力は優れているが、日中の気温上昇で野菜によってはビニールの裾を開ける必要があります。透光性、保温性が高い一方で、農ビの耐用性は1~2年と短いものが多いです。



○トンネル資材-2 (換気オービロンなど)

「トンネル資材-1」に換気のため穴を開けています。穴は、2~5列開けてあるものと、穴の代わりに網になっているものがあります。夜間の保温能力は「トンネル資材-1」より落ちますが、日中でも換気の手間がかからず、葉もの野菜などに適しています。



○不織布資材

種をまいた上、もしくは作物の上にふわりと掛けるだけで霜や寒さ除けになります。ただし、1枚だけでは夜から朝までの一番寒いときの気温を上げることができないので、他の資材と組み合わせる必要があります。



＜カラス対策 黒色ワイヤが効果＞

山梨県総合農業技術センターは、カラス対策で極細のつや消し黒色ワイヤを2、5m間隔で張ると防鳥効果が高いことを突きとめた。餌をまいた畑で試験した結果、畑への侵入羽数は防鳥対策をしないときの0、4%、光沢のあるワイヤを張った時の4分の1程度だった。

鳥害対策では、安価な方法としてテグスなどの糸が利用されている。糸を嫌う要因を探ろうと2010年に、カラスを対象に試験した。その結果、黒色ワイヤの畑に侵入した羽数は、対策なしの255分の1となった。

100日以上継続して試験したが、黒色ワイヤへの慣れは生じなかった。

11、12年には県内2か所のブドウ園で現地試験し効果を確認した。同センターの本田剛研究員は「黒ワイヤはカラスに見えにくい。賢いカラスは摂食する怖さを知り、近づかなくなると考えている」と要因を推定。「けがをさせるのが目的ではないので、しなやかな資材を柱に使う。ワイヤも切れにくい。家庭菜園などでは化学繊維のミシン糸で2週間ぐらいもつので試してほしい」と話す。(平成24年9月28日「日本農業新聞」より)